

第7回夕張市高等学校対策委員会会議録

- 1 日 時 平成27年5月29日（金） 午後6時～午後7時20分
- 2 場 所 夕張中学校 2階 多目的室
- 3 出席者 小網・本田・鈴木・石川・今・長田・白井・伊藤・黒瀧・熊谷・小林委員
- 4 委員長挨拶 小林委員長

5 報告事項

- (1) 委員の変更について …… 資料1のとおり
- (2) 平成27年度公立高等学校配置計画地域別検討協議会（第1回）について
…………… 資料2により委員長説明
- (3) 北海道教育委員会との協議について

委員長

5月7日に道教委の相馬参事と谷垣主幹が来庁いたしまして、正式にキャンパス校等について検討していただきたいということのお話がありました。

若干ではありますが、時期等々の問題で意見交換を行いました。我々としても27年度については十分議論をしていきたい、なるべく市民合意をいただきながら前に進めていきたいということでお話しをしたところであります。

したがって、今日今年度1回目の対策委員会が開かれている訳ですけれども、道教委としては指針に基づいて、ぜひ理解を得られるよう道教委も努力したいということですので、後ほど協議をする場面もありますので、その点につきましてもよろしくお願ひしたいと思います。

なお、来週の火曜日2日におそらく来年度の高校配置計画等について、道教委の計画案が提示されるだろうと考えております。

その中に夕張高校の問題は多分入ってこないと理解しておりますけれども、いずれにしても、この問題は避けて通る訳にはいかないということですので、後ほど議論させていただきたいと思っております。

それでは中学校の校長先生から、去年から今年にかけての学校の状況と、今回夕張高校が結果的に1間口になった、その辺をお話しいただければと思います。

委員

夕張中学校の長田でございます。

教育長からお話があったとおり、今年65名の卒業生ということで、夕張高校に進学したのが37名、58%程度の進学に結果的になりました。

理由は様々ありますが、夕張高校以外を選択した子どもたちには、例えば自分の家から通学時間、通学方法について夕張高校へ行くよりも近くて便利なところ

があるというようなこと、それから部活動で運動の強い学校に行きたいですとか、あるいは小学校からずっと同じ人間関係を続けてきたので、高校からは少し新たな人間関係を求めてということで違う高校を希望した等々で、60%を切るという結果になったところであります。

今の3年生はまだ希望調査をしていませんけれども、現在38名卒業を予定しているということで、また、2学期になりましたら調査をしていきたいとは思いますが、中学校としてもなるべく地元の高校に進学できるような説明会等を進めてまいりたいと思います。

中学校は4月スタートしたわけですがけれども、今年度から教育委員会の働きかけもあって、いわゆる法律で決まっている定数よりも多く職員を配置してきました、その結果、今までは時々しか実施できなかった少人数指導のT・T、あるいは習熟度別の指導が、数学及び英語で年間を通してできるようになって現在指導中でありまして、また教育相談も年間600時間程度計画をして、教育相談週間でなくても日常的に勉強の悩みや生活の悩み、家庭の悩み等々を相談できる体制を取っているところであります。

昨年度から、小学校にある通級学級ことばの教室を中学校でも、という要望がありまして、その開設も進めてきたのですが、それが叶わなかったことから、現在の職員の中でやりくりしながら通級相談を行っているところです。

併せて学力という点では放課後の学習も行っておりまして、部活動をやっている者、あるいは勉強をしているものということで、放課後の時間を有意義に活用している状況であります。

それから、部活動につきましては、今年度から地域の皆さんの強い要望がありまして、サッカー部の開設が去年から懸案となっていたのですが、今年度からスタートいたしました。

1年生が7名、2年生が1名、合計8名で今サッカー部を運営しているということでありまして、お金のない中で備品等を数年かけて充実させていきたいと思っております。

小学生には結構サッカーをやっている、少年団で活動している子もいますので、将来的にみてもサッカー部は存続していくのかなということで、今年11名集まらなかったのですが、スタートをしているところであります。

生徒指導上も落ち着いて生徒は生活しておりますし、特に学校に来られないという不登校の生徒も今の所いませんし、授業がまったくわからなくて困った、ですとか教室に入れられない子もないということで、穏やかにスタートできたと思っております。

簡単ですが以上であります。

委員長

ありがとうございました。

それでは夕張高校の今校長先生お願いいたします。

委員

夕張高校の今と申します。よろしくお願ひいたします。

まずは、本校の対策委員会に関わりまして、多くの方々に多大なるご支援と、それからご心配をおかけしていることに大変申し訳なく、また感謝申し上げたいと思います。

昨年度本会の決定事項ということで、委員長が中心となって2間口を強力に押し進めて、それを勝ち取ったというようなことで、大変力強いサポートをいただいたということでもございましたけれども、そのことに対しまして私どもは、その意を十分汲み入れられなかったということから、すべて私の責任であるかなと大変申し訳なく思っております。

いずれにせよ、本校は地域から受け入れられていなかったというところが大きな検証の要素になると、自身で分析をしているところございます。

このようなことを受けまして、今後の対策につきましては、将来構想という面からも夕張高校をどうしていきたいか、ということ職員で研修をしていく予定で、6月から入っていく予定となっております。

魅力のある学校ということが大きなキャッチフレーズになるところなのでしょうけれども、魅力のあるということは、私は先ほど長田校長もお話ししておりましたように、部活の面でも進学の内容ということに行きつくのかなと考えております。

私は学校経営の方針テーマとしては、生徒一人ひとりの幸せのためにという内容でありますので、一人の生徒も疎かにしてはならないということで学校経営を謳っております。

私が来て、年度はスタートしていましたが、途中でトップダウンという観点から、平常講習と長期休業の講習をすぐに設けなさいという指示を出しました。

色々と異論はありましたが、最終的にはそのような形で進めさせていただきました。

その甲斐あってということでしょうけれども、今年度は各教科が、いわゆる5教科が平常時において講習を設けると、しかも結構長く設けるということに、教科の方からも上がってきているという状況であります。

長期休業においても、1週間から10日の講習を設けるという流れで、今進んでいるところであります。

打ち上げ花火というようなことは言い過ぎかもしれませんが、進路ということ、進学においては市民の方々から注目を浴びる部分だと思っておりますので、国公立については複数決めようということで、今の所進んでおります。

今まで一人だった状況があります、ですからこれからは複数ということを考えながら、各教科と調整を進めてきております。

本校は、推薦ということに重きを置いてきた学校だったものですから、推薦となると小論文ぐらいが大きな学習要素だったということでもあります。

小論文となると、確かに国語の力はつきますけれども、では他の教科はどうかという疎かになるような状況もありますので、やはりセンター試験を受けさせる形で対応していきたい。

学習環境、特に家庭学習の定着というのがうまくいっていない、全道規模でもそうですし、市内においてもそうだと思います。

学習環境を整えるという意味で、今年度から学習部を立ち上げました。

この学習部においては、今 13 名が学習部に入っております。

ただ、高体連の関係が先週まであったものですから、高体連の関係が終わった後に 3 年生は、基本的に学習部に入れながら、という形で進めて行きたいと考えております。

そのうち学習部ということ、全道的にも以前いた学校で私が進めてきたところで、全国的にも公立学校で学習部は設置されていないという珍しい例であったものですから、私が立ち上げてきた時の様子を見てきたら、複数国公立に入っているという状況で、今まではひとりも入っていないのですけれども、毎年入っているという状況になっておりますので、それを利用しながら本校においても活用して進めて行きたいと思っております。

今、本校においては、岡山県から一人スキー留学をしております、もう一人は栗山中学校から来ておりますが、中学校 1 年生まで夕張中学校にいて転校し、高校は夕張高校にということでこちらに入学をしてきてくれたという生徒がおります。

現在定員 40 名のところ 39 名で、2 間口までもう 2 人いればというようなところだったのですけれども、残念ながら叶わなかったという、非常に残念な結果だと思っております。

卒業生の減少は、これはもういた仕方がない、30 数名という卒業生、あるいはこれからも 30 名台が続くということになりますので、それは現状仕方がないことでありますから、ただ、50 数%という入学率を何とか 80、90 というような形にしていければ、つまり卒業生が夕張高校に来てくれるということのための色々な対策を講じていきたい、昨年度の途中からですけれども、進めながらやってきております。

今年度はもっと強く進んできているということでもあります。

まだまだこれから職員の尻を叩きながら、夕張高校の魅力ある学校づくりに視点を置いて進んで行きたいと思っております。

皆様方には色々とお知恵を拝借することもあると思っておりますが、よろしく願いいたします。

委員長

ありがとうございました。両校の校長からお話しがありましたが、何かお聞きしたいというようなことがありましたらお願いいたします。

- 委員 去年の3月まで夕張高校で勤務をしておりました。
今年度2間口になったということで、私も地域別検討協議会では毎回毎回発言はしていますが、良かったなど、うれしく思っております。
これまでの中身からいうと、中学校から高校にはだいたい8割くらい、悪い時でも7割だったので、2間口が確保できるのではないかと嬉しく思っていたのですが、ふたを開けてみたら57%ですか、どうしてなのかなという気持ちがある。
子どもたちは自分で高校を選べるという中身はあるのですけれども、65名のうちの37名が夕張高校、残りの28名がどちらかの学校に行ったか教えていただけたらと思います。
- 委員 後ほどお知らせいたします。
- 委員 高校の校長先生にお伺いいたしますが、今お話しの中で、講習会を行うですかありましたが、部活動はどのような状況でしょうか。
- 委員 本校の加入率は80%でございます。ですから多い方だと思います。
全校生徒が110名ですので、なかなか団体競技を展開するのは難しいのですが、入学してくる生徒には希望を叶えてあげたいというところも職員は考えておりました、少なくとも次の学年が入ってきたときに団体ができれば、あるいは近隣の学校とチームを組めればということで進めておりますが、野球部が9名丁度です、ですから次の新人が入ってきたときは新チームで栗山と合同のチームになるかなと今の所考えております。
サッカー部は今19名入っております。非常に人気があるようで、この間の試合では大敗を喫しましたが、少しずつ力をつけていければと思っております。
今年度1勝上げておりますので、そういう面では一つずつ階段を上っているのかなと思っております。
野球部は残念ながら砂川高校に0対6で敗れましたが良い試合をしたのかなと思っております。
女子バスケットについては、期限付きの教員が非常に一生懸命やってくれております、女子にも非常に信頼感があって、私も見に行くことがあるのですが、力をつけてきている、この間は4点差で負けはしましたが、1勝は上げておりますので、なかなか勝てなかったバスケットですけれども今年度については1勝して、今年はずっとアップするみたいであります、選手の層が増しているということだそうです。
あとは、陸上部は今年初めて全道に出場することになりました。ハードルです。空知管内で2位になりました。
数か月前から本格的にやり始めて、非常に伸びた生徒で、2位となり今度の高

体連の全道大会に進むことという状況になりました。

相撲をやっていた生徒が、投てきの方に入りました。女子の方も栗山から来た生徒で、力があるようで全道大会、今年度の新人戦は狙えるのかなと思っています。

個人競技で色々な高校と対戦するチャンスかなと思っています。

あとは美術部が7・8名、それからワープロ部が7・8名、吹奏楽が13名、学習部が13名、いずれにしましても団体はやりづらい人数になってきてはおりますが、そのような状況であります。

今年度の状況は以上であります。

委員 わかりました。

委員長 今校長先生、先ほど学校の中で魅力ある夕張高校ということで、議論を開始しようということだと思のですが、これから明らかに1間口で行くしかない状況の中で、どのような方針といたしますか、校長先生が考えている範囲の中でいつごろまでにそういったものが出るのかお聞きしたいと思います。

委員 日程的には、断言はできませんが、いずれにしても6月からそれを進めて行く。チームを造って、そのチームで原原案のようなものを出しながら、それをたたき台にして夕張高校のこれから進むべき道という、魅力ある学校づくりという形で進んでいくことになると思いますが、教育課程とぶつけながら、それを少なからず考えていくことになる、たぶん10月、11月くらいまでということで、少し見えてくるのかなと思っています。

ただ、来年度のことですから、早くは進めたいとは思っております。

委員長 ありがとうございます。

その他ありませんか。

ないようでしたら、次に協議事項について事務局からお願いいたします。

6 協議事項

(1) 今後のスケジュールについて …… 協議資料1により説明

委員長 今後大きな枠組みとして今ご提示させていただきましたが、状況によっては変わってくると思います。あるいは後ろに少し延びるということも含めてこのようなスケジュールで行っていきたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、意見交換に入りたいと思いますけれども、今の段階でお話ししておきたいことがありましたらだしていただきたいと思います。

7 意見交換

- 委員 今のスケジュールの関係で、12月に道教委への要望ということですが、昨年であれば間口を増やしてくださいというような要望がメインだったと思うのですが、今年度に関してはどういった要望が予想されますか。
- 委員長 1間口校になったことにより、キャンパス校の問題が提起されておりますので、この議論はしていかなければならないだろうと思います。
それらの状況の中で、私はずっと言ってきたのですが、キャンパス校の教育環境を、もしそういう方向で行くということであれば、キャンパス校の教育環境をどのように保障するのかということも我々は考えて行かなければなりません、人事上の問題ですとか、非常勤や加配の問題であるとか、このようなことが中心になってくると思います。
- 委員 昨年度2間口の決定が得られたのは何月ですか。
- 委員長 要望書を持って行ったのが一昨年8月6日で、昨年の丁度この時期の計画案で夕張高校は2間口ということでした。
最終的には9月の教育委員会で決定ということですから、昨年の9月の北海道教育委員会で決定というスケジュールであります。
- 委員 中学校の校長先生にお伺いしたいのですが、中学校3年生が進路を大体決めるのは何月頃になりますか。
- 委員 3者面談で最終的に決めますので、12月の去年の場合は第1週に3者面談を行っております。
3者面談でほぼ決まりますから、ご家庭では11月くらいから親子でということになるのでしょうか。
- 委員 もっと早いと思います。夏期講習なんかもあるじゃないですか。
- 委員 市外に出ようとする子は3年生になる前に決める子もいるようです。
- 委員 であれば夕張高校へ行こうと卒業生たちが決める時期は、対策委員会であったり、学校側が考えているより早いということですね。
- 委員長 全体としては早いですね。ですからキャンパス校ということを前提に考えたら、今回我々も新たに説明を受けますが、やはり中学校で親御さんも含めて、そういうものに代わっていく情報も同時に与えて行かなければならないと思っております。

ます。

したがって、その部分と今校長先生が、今夕張高校の内部で検討いただいたということも相まってきますので、いずれにしろ仮に 29 年度ということになったとしても、来年入る子どもは 2 年生の時にそういうキャンパス校になるという状況の中で、今高校対策委員会でこういう議論をして、こういう新しい学校のスタイルになるのだということを、どこかの時点で説明しなければならないのではないかと考えております。

委員 3年計画でしたね。

委員長 そうですね。3年計画ですけれども、2・3年目については、どんと出すという事ではないです。

来年度 28 年度は正確にこういう案を出しますということですが、29 年度、30 年度については、わかっている範囲で出てくるという事なので、たぶん道教委もそこはまだ色々こちらで議論していますので、出さないと思います。

委員 今タイミングの質問をさせていただきましたが、今回私も初参加なので根本的に考え方が間違っているかもしれませんので伺いたいのですが、この対策委員会は、道教委に対する要望を取りまとめるだとか、道教委が出してくる方針に対する対策を練るといことが目的の委員会なののでしょうか、それとも私の感覚で言うと、先ほど高校の校長先生が、私が全部悪いのですというお話しをされましたけれど、夕張の子どもたち小学生、中学生が夕張高校に行きたいと思ってもらえていれば、それこそ 2 間口に対する子どもが入ったと思うし、そこに対する啓発と言いますか、夕張高校に行くとこんな良いことがあるよということ、高校側からだけの発信ではだめで、小中学校の先生方だったり、保護者だったりということからどう伝えていくのかということも、子どもが行きたいところに行かせてあげたいのが親心ですから、問題としては子どもが自発的に夕張高校に行きたいと思ってもらう必要があると思うので、そこに対するケアというのを議論することはないのでしょうか。

委員長 それも、今までもやってきましたし、これからもやっていくということで、このあとの時間の中でどういうふうにこれをセットしていくかということも、この会のこれからの課題だと思います。

委員 今までやってきた活動というのは、具体的にどういうことがあったのですか、道教委対策以外に。

委員長 色々な機会から私からこういうことについては話をしているつもりではあ

りますけれども、改めて対策委員会としてチラシを出したり、啓発したりということはなかったと思います。

今までは、ある意味では間口の問題だけで議論してきた経過があります。現実はまだ2間口ありましたので、それが今こういう状況になってしまったということです。先ほど本田委員が言ったようなことも、この会の大きな使命と言いますか、役割を担っていかなければならないだろうとは思っております。

委員 わかりました。

委員 キャンパス校ということについて、先ほど委員長からお話しがあったところですが、5月7日に新しい高校づくりの参事と主幹が来て、このような話に進めて行く可能性が高いという話をされました。

キャンパス校というのは、誤解があるかもしれないのですが、とにかく学校を地域に残すというのが基本であります。

ですからこの夕張という地域が、市外の学校に通うというのが難しい地域ということであれば、学校を残さなければならないという観点が道教委にはあるということが大きなひとつであります。

残すうえで大きな方策のひとつとしてキャンパス校があるということです。

キャンパス校の良さ、メリットデメリットそれぞれあるとは思いますが、私から参事に申し入れましたけれども、基本的には生徒に不利益が被らないようにということが第一ですというお話しをいたしました。

それから、相手方の高校から、管外から派遣されるということは今の所ありませんが、管内になりますので、結果的に大きな学校ということになると思います。

生徒にとっては大きなマイナスにならないように、派遣校の認識を十分に熟慮したうえでその話を進めてほしいということも申し上げております。

いずれにせよ、夕張高校に入ってくる生徒に一番メリットのある状態ということを進めていただきたいということで意見を申し上げたところであります。

委員 中学校の進路指導といたしましても、今本田委員が心配されているようなこともありますので、いわゆるキャンパス校という言葉だけが先走りをして、少しデメリットがあるような、キャンパス校なら行かないということの誤解のないように、キャンパス校がスタートするのはいつからかまだ分かりませんが、はっきり分かった時点で、生徒、保護者には制度を正しくお伝えしていくようなスケジュールを組むと共に、先ほど教育長が言った通り、高校でどのような学校にしたいのかという検討をしているということですから、それも含めてキャンパス校はこうだよ、今高校はこういうように変わっていくよということを発信していきたいと思っておりますが、それと共に、この委員会として、ぜひ夕張高校というのはこんなに魅力的なところなんだという啓発を皆さんでしていただきたい

と思っております。

委員

私は、先ほど高校の部活の様子を伺って、今指導する方が増えて、サッカーなんかもそうですけれども、何年前に来られた先生が非常に熱心で、そのような指導者がいれば部活も元気になってくるということがあると思います。

そういう観点から言いますと、キャンパス校になると教員の数も減らされる。

私はわずか100名ちょっとで8割の加入率というのはすごいことだと思っておりますし、そういう観点から言って、部活でここに入りたいという子は、教員の数が減らされますから、当然顧問の数も少なくなっていくということは少しマイナスになるかなと思います。

それと、遠隔授業ですが、インターネットを使って画面上で行う、私も教員30何年やっておりましたが、本当に生身の人間が一生懸命やってもなかなか勉強してくれない生徒もおります。

そういう子たちにとって、画面見て本当に勉強できるかなということも思います。

ゆくゆくはキャンパス校にならざるを得ないかなという思いはあるのですが、そうでない形で教員数を確保するということが大事で、講習なんかも一人でも大学進学希望者がいれば、放課後教員がいればできるんです。

だけれど、通いの先生は授業が終わったら大体帰られる、そういうこともキャンパス校になると難しくなるかなという思いがあります。

小林教育長も地域別検討協議会では、キャンパス校について十分授業に行き届いたそういう配慮をしていただきたいという要求と言いますか、お願いを夕張全体から上げていくということは非常に大事ではないかと思えます。

委員長

先ほどのスケジュールでいきますと、色々な疑問をこの次、道教委が説明に来た時に伺っていただいて、イメージをきちんと作っていただくということも大事だろうということで、7月にはなんとか実施したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

委員

少しよろしいでしょうか。私はネガティブな発想はまったく持っていないので。

とにかく生徒に不利益が被らない、与えないというところで、そこは一貫して私は進めて行きたいというところでありますので、先生方が少なくなったからといっても放課後学習ですとか、そういう学習のところは提供していくことについては引かない部分でありますし、生徒が力をつける、学力をつけるというところについては一貫して進めて行きたいと思っております。

キャンパス校が悪いイメージで伝えられないように、その辺はご理解いただければと思います。以上です。

委員長 | それではその他をお願いいたします。

7 その他

事務局 | 次回の対策委員会ではありますが、今後北海道教育委員会から平成 28 年度以降の配置計画案が出されることとなりますけれども、道教委と日程の調整を行いながら 7 月中に道教委からの説明を受けるというような形の委員会を開催したいと思います。

その時は、事前に皆様にはご案内を差し上げることとなりますので、参加をよろしくをお願いいたします。

私からは以上であります。皆様から何かございませんでしょうか。

委員 | ありません。

委員長 | それでは以上をもちまして第 7 回目の対策委員会を終了したいと思います。お疲れ様でした。

7 閉 会

配布資料等一覧

資料 1 夕張市高等学校対策委員会委員名簿

資料 2 平成 27 年度公立高等学校配置計画地域別検討協議会（第 1 回）教育長発言要旨

資料 3 平成 27 年度地域別検討協議会 P T A 分科会説明資料

資料 4 空知管内各高校の紹介資料

資料 5 北海道の新しい高校づくり 2 0 1 5

協議資料 平成 27 年度今後のスケジュール（予定）